

Q	A
どのコースを選択したら良いのか？基準は？	<p>ビギナーコースは大学院生の実習でもあることから、学部卒の基本的な知識があれば、UNIXの経験はなくても参加は可能です。コースの中にUNIX講座を設けています。ただし、もちろん自身である程度習得されているほうが望ましいです。</p> <p>アドバンスコースはビギナーコースの発展的な位置づけでUNIXの基礎はあるものとして進められます。最低限エディターでのファイル操作が問題なく出来る必要があります。</p> <p>エキスパートコース、スパコンコースには、第一原理計算での研究の経験がいくらかあることを前提とします。初歩的な説明などはなく、実践的な実習の身になります。研究の経験が豊富でもUNIXの操作の経験がない、第一原理計算コードでの計算の経験がない方は参加できません。</p>
アドバンスコースを考えていますが、コードのことが良く分からなくてどれを選択したら良いのかわからないのですが。	<p>HPIに簡単なコードの説明と、その先に各コードのHPがリンクされていますので、そちらで各コードの特徴をご確認ください。参考までに各コードのカタログをHP に載せてあります。その中に、どのような実習をしたのかが書かれています。ご自身の研究やご関心と合うものをお選びください。なお、実習内容は毎回少しずつ更新されておりまして、必ずしも同じ内容の実習が行われるとは限りません。その時その時の受講生の興味に合わせて内容が選ばれることがあります。必ずしも希望がかなえられるわけではありませんが、申込書にある受講生の研究対象物質などの記述は講師には伝えられます。</p>
けいはんな開催の場合、宿泊なしで参加させていただくことは可能か？	<p>原則合宿形式での参加ですので、通い出の参加は認めていません。特別な事情がある場合のみ個別にご相談ください。</p>
開催場所が、国際高等研究所と日本原子力開発機構関西光科学研究所の2か所となっていますが、コースごとや日にち毎に場所が変わるということでしょうか？	<p>実習会場はコースごとに違います。ビギナーコースは原研(JAEA)、他のコースは高等研(IAS)で行います。全体で行う開講式、先端研究事例の講義、閉講式は高等研で行います。プログラムの講義の欄にJAEAかIASのどちらかが書かれていますのでご確認ください。(CMD20はIASのみで開催)</p>
ランプセッションはどのようなことを行うのでしょうか？	<p>ランプセッションでは基本的には自由な議論の場として時間を取っているだけで特に準備が必要なわけではありません。こちらで提供している内容以外の議論が講師や受講生としたいのであれば、この時間を利用してやって頂ければと思います。また自由参加ですが、こちらで用意をするものとしては、通常Windows/パソコンの環境しかない方が多いので、Linux環境を簡単にセットアップする方法のいくつかを紹介することもあります。ワークショップを終わった後も継続した勉強や計算のトレーニングがしたい場合どのようにするのかのアドバイスをしております。もしこの時間にワークショップのプログラムにない何かをやりたいのであれば、その準備をされて臨まれてもよいかと思えます。ただ出来ることと出来ないことがありますので、分からない場合は事前にご相談頂ければと思います。</p>
阪大社会人ナノプログラムのコース1ではCMDワークショップの参加が必修になっていますが、改めて申込書を送る必要があるのでしょうか？	<p>ナノプログラム受講生の方でも必ずCMDワークショップ事務局に申し込みをお送りください。CMDワークショップは9月と3月の2回の開催で、どちらに参加されるか申し込み頂かないと把握できません。申し込みは、9月及び3月の開催のCMDワークショップのHPが6月及び12月ごろに更新されますので、そのころ以降に申し込んで頂ければと思います。ナノプログラム受講生は必修ですので、選考はありません。</p>
懇親会に参加しなくてもよいという選択はあるか？	<p>懇親会は原則全員参加でお願いしています。参加者と講師、あるいは、参加者同士の交流を深めることは、ワークショップ期間のみならず、その後の各人の研究や仕事上プラスとなる可能性がありますし、学生であれば、社会人の方々との交流は就職活動の参考にもなるはずですので、不参加ということは、認めておりません。</p>

Q&A

Last updated 2010/11/26

Q	A
All the courses are English?	Usually, most participants are Japanese students(M.S or Ph.D course) or researchers who belong to a company or University etc... The official language depends on the amount of participants who come from foreign countries. Hands-on practices can be given in English and Japanese completely. However, lectures of case studies may be given in Japanese or English, depending on speakers. The texts and contents(PPT files)can be given in English. We have several tutors and they support the hands-on practices by English.